

## ニ ュ ー ス

### 都市近郊でのニホンミツバチの飼育を目的とした「日本蜂研究会」設立

町田市, 府中市, 三鷹市, 小金井市, 茅ヶ崎市, 横浜市など都市近郊でのニホンミツバチ愛好者, 研究者など17名によって, 「日本蜂研究会」が1995年10月28日に設立した。

分蜂群の収容, 飼育, 増殖法の技術指導や青木圭三氏と吉田忠晴氏によって開発・改良されたAY巣箱, 須藤頼男氏の考案による盗蜂防止器の幹旋や会報「ハチの知らせ」(年1回)が発行される。

事務局は会長, 青木圭三宅(〒194-02 東京都町田市相原町1215), 年会費は1000円。

### 玉川大学ミツバチ科学研究施設から

#### 新年おめでとうございます

多くの方々より賀状をいただきました。この場をかりて, 新年の挨拶に変えさせていただきます。

本年は日本昆虫学会・日本応用動物昆虫学会合同大会(山口大学・3月), 国際花粉媒介シンポジウム(カナダ・6月), 国際昆虫学会(イタリア・8月)でのスタッフの研究発表やベトナム・ハノイでの第3回アジア養蜂研究協会大会の開催(10月)などが予定されている。

本年もよろしく願いいたします。

#### ミツバチ科学研究施設 図書・論文・資料リスト(1995) (本誌の掲載論文・記事を除く)

- 松香光夫・深江義忠・清水 衛. ヴィエトナム特用家畜(ミツバチ)調査報告書. (社)畜産技術協会. pp. 80+図版 pp. 6.
- 中村 純. 環境応答としてのミツバチの共食. 玉川大学学術研究所紀要1: 33-48.
- 新島恵子. ヨツボシクサカゲロウの栄養と人工飼料. 玉川大農研報35: 129-157.
- 岡田一次. ミツバチの思い出雑記. 蜂針25: 54-58.
- 小野正人. いま注目される昆虫機能の利用—マルハナバチと生物農薬. インセクタリウム32(1): 4-9.
- 小野正人. スズメバチ類の情報化学物質. 遺伝49(9): 19-25.
- Ono, M., T. Igarashi, E. Ohno and M. Sasaki. Unusual thermal defence by a honeybee against mass attack by hornets. Nature 377

(6547): 334-336.

佐々木正己. ポリネーター類の総合的利用化—特性比較, 管理と人工授粉との組み合わせ使用—. 植物防疫49(2): 24-27.

吉田忠晴(共著). 自然環境とミツバチ. 社会科プラス1(光村図書出版編). 光村図書出版, 東京. p. 5-7.

吉田忠晴(共著). ミツバチ. 21世紀こども百科大図解(小学館編). 小学館, 東京. p. 244-255.

吉田忠晴(監修). おおきなしぜん ちいさなしぜん <こんちゅう> みつばち. フレーベル館, 東京. pp. 30.

吉田忠晴. ニホンミツバチ *Apis cerana japonica* Radoszkowski とセイヨウミツバチ *Apis mellifera* L. の配偶行動に関する比較生態学的研究. 玉川大農研報35: 159-208.

吉田忠晴. 不思議 ふしぎ「ミツバチの巣 なぜ六角形」. 北海道新聞, 10月2日朝刊.

#### 編集後記

日本プロポリス協会のお世話で鈴鹿高専の鈴木教授らから, 水溶性プロポリスとの併用による抗癌剤の副作用の軽減や腫瘍抑制の活性化について, 徳島文理大の佐藤教授らから, ヒアルロニダーゼおよびヒスタミン遊離阻害作用に基づくプロポリス製品の生化学的品質評価の2題の研究報告を掲載することができた。ニホンミツバチとセイヨウミツバチの扇風行動の相違点に関する生田氏の報告は, 卒業研究論文をまとめたものである。小野講師らのネイチャー誌に公表した論文は, 各国で大きな注目を集めているが, 本誌表紙に蜂球温度の可視化写真と本文に若干の知見を加えて掲載した。神奈川県農総研から研究員として来学中の浅田氏にマルハナバチの病気の翻訳をお願いした。岡田名誉教授の寄稿にお礼申しあげる。(忠)